

724日間の闘いを終えた12人の韓国サンケン労働者

「日本の団体、労働部に感謝」

韓国サンケン労使合意書調印式

……昌原雇用労働支庁の仲裁役割を評価



◀「廃業撤回」を掲げて724 日間を闘った金属労組韓国サンケン支会組合員



◀7月6日、労使合意にともなって金属労組韓国サンケン支会の組合員がサンケン電気営業所のあるソウル麻谷洞のコンビル前で座り込み場を整理

会社がなくなるという知らせを聞いた日から700日以上闘ってきた12人の労働者が「闘いの現場で再び会いましょう」としきりに感謝の意を表わした。彼らは昌原の馬山自由貿易地域にあった韓国サンケンでLED照明器具などを生産していた全国金属労組慶南支部韓国サンケン支会（支会長オ・ヘジン）の組合員たちだ。

2020年7月、日本資本「サンケン電気」が韓国サンケンの清算を発表するや12人の組合員は「廃業撤回闘争」に立ち上がった。彼らは昌原・馬山はもちろん、ソウル・釜山の日本大使館などを行き来しながら闘い続けた。2021年1月、韓国サンケンの廃業後に工場の建物は他の業者に売却されたが組合員は闘いを続けていった。韓国サンケン支会はサンケン電気に直接交渉を要求したりもしてきた。

そんな中で6日午前、ソウル南部雇用労働支庁で「韓国サンケン労-使交渉の調印式」が進められた。韓国サンケン支会が会社側の清算人と合意書に署名したのだ。労使の合意事項は非公開決定にしたがって具体的な内容は知らされなかった。会社側は労働者に「慰労金支給」を行い、韓国サンケン支会は闘争現場を整理することにした。

韓国サンケンの労働者が廃業撤回闘争に立ち上がってこの日で724日目、サンケン電気の営業所があるソウル麻谷洞のコンワビル前でのテント座り込み148日目、APTC事務所での座り込み籠城17日目、ハンスト座り込みは14日目だ。



◀7月6日、労使合意にともなって金属労組韓国サンケン支会の組合員がサンケン電気営業所のあるソウル麻谷洞のコンワビル前で座り込み場を整理

韓国サンケン支会「高貴な闘いの成果を残した」

韓国サンケン支会は立場文を通じて「これまでの全国の同志の熱い連帯と応援、献身的な実践と闘いに感謝」の意を伝えた。彼らは「2020年7月から始まった韓国サンケンの闘いが2年間の闘いの末に、私たちが目標としたことを全て成し遂げることができなかったが、国内外の多くの連帯の力で終えることになった」と明らかにした。

同時に「12人の組合員でこの闘いを決意し始めることは容易ならぬ決定だった」とし、「韓国サンケンの闘いがここまで続けられたのは、地域の連帯と韓日の国際連帯を通じて新たな闘いを継続して作り出してきたから」と評価した。コロナパンデミックで労働者が遠征闘争に出られなくなると、日本の労働・市民団体が「韓国サンケン労組を支援する会」を立ち上げ、サンケン電気を相手にデモや闘いを展開した。その過程で日本人活動家が拘束されたりもした。

韓国サンケン支会は「日本の国際連帯は自発的な市民の会をはじめ、サンケン電気資本の営業所がある日本の各地でサンケン電気を打撃する闘いを作り出した」とし、「日本の労働者・民衆・市民社会の連帯組織の立ち上げと2年近い連帯闘争は目を見張るような人間尊厳と国際的な同志愛を示してくれた闘いだった」と感謝の意を表した。

支会は「私たちが目標にしていた外国人投資誘致法改正案は結局上程できなかった。また全国に外国人投資企業の問題を想

起させ、国会議員から慶南道・昌原市議、慶南道知事、昌原市長、雇用労働部までが乗り出して日本資本サンケン電気と日本政府に抗議した」と闘いの成果を明らかにした。

彼らは「私たちの民主労組の旗はまだ折れていない」として「巨大資本が結託した強大な資本を相手に12人の組合員が闘って、勝利とは言えなくとも絶対に敗北とは言うことのできない高貴な闘いの成果を残した」と評価した。オ・ヘジン支会長は「今また新たなスタート地点に立つことになった」と述べ、「700日を越える長い時間の中で作られた国際連帯をどのように継承し発展させるのか、韓日間の国際連帯の歴史において類例を見ない事例を作り出した今回の闘いを通じて、今後さらに一層韓日の国際連帯を強化する闘いを準備しようと思う」と強調した。



◀7月6日午前、ソウル南部雇用労働支庁で開かれた「韓国サンケン労使交渉の調印式」

「合意に雇用労働部による仲裁の役割を評価」

今回、韓国サンケンの労使合意を引き出す上で昌原雇用労働支庁が大きな役割を果たしたと評価されている。韓国サンケン支会も立場文で「雇用労働部までも乗り出した」と言うほどだ。

妥結の後に昌原雇用労働支庁（支庁長イ・サンモク）は報道資料を通じ、「段階別の交渉妥結指導方策を立てて随時内部会議を開いて労使と積極的に面談するなどの努力をしてきた」と明らかにした。昌原雇用労働支庁は妥結にいたるまでに支庁長の労使面談6回、担当監督官と労使の面談100回余りを進めた。

労働者が上京闘争に出発すれば、昌原雇用労働支庁は緊急にソウルに担当勤労監督官を派遣した。その後、昌原雇用労働支庁は労使の要求事項を把握して交渉を斡旋し、6月22日には交渉に参加することにもした。そうして7月4～5日の集中的な労使交渉に続いて、この日の調印式に至るようになったのだ。

イ・サンモク支庁長は「この2年間、韓国サンケン労使は事業場廃業などによって労使の葛藤が深刻化するなど多くの浮き沈みがあったが、労使と共に昌原雇用労働支庁が全てあきらめずに長期間の交渉に臨み、ついに労使共生という結果を生み出した」と語った。イ支庁長は「これは地域の労使関係に新たな地平線となるだろうと確信する」と述べ、「労使交渉が成功するまでさまざまな努力と支援を惜しまなかったソウル江西警察署などの関連機関にも感謝する」と明らかにした。

調印式に共に参加した金属労組慶南支部のイ・ギョンス副支部長は、「労組としても外国資本との闘いは本当に難しい過程だった。特に事業場の廃業は勤労者の生存問題でもあるので絶対的に慎重でなければならない」と述べ、「ただし韓国サンケンの場合は労使交渉が難関にぶつかる度に昌原雇用労働支庁が積極的な仲裁の役割を果たしてくれたので終結できた」と明ら

かにした。

会社側の法律代理人ムン・ヒョンジュン弁護士は「労使の立場の違いが大きくて合意が決裂するのではないかと心配したが、昌原雇用労働支庁の仲裁によって円満妥結した」と述べ、「交渉終盤に労使共に少しずつ譲歩して事態解決ができた、勇断を下してくれた労使代表に感謝する」と語った。

慶南新聞 2022年7月6日

 **경남신문**

昌原の韓国サンケン解雇労働者座り込み724日ぶりに終結

6日にソウル南部労働支庁で労使交渉の署名

合意案は非公開……「要求、完全受け入れならず」

外国大企業を相手に成果をあげた点は高く評価

親会社の日本サンケン電気の一方向的な廃業決定に反発して突入した昌原の韓国サンケン労働者の座り込み籠城が会社側との合意で724日目に終わった。

全国金属労組慶南支部韓国サンケン支会は6日、ソウル南部雇用労働支庁で労使交渉の調印式を開いて合意書に署名したと明らかにした。支会は5日に会社側清算人代理人との交渉で暫定合意案を導き出した後に組合員の同意手続きを踏んだ。



◀ 6日、ソウル南部雇用労働支庁でもたれた昌原の韓国サンケン労働交渉調印式で労使政関係者が記念写真を撮影

同日の労使双方の細部合意内容は相互非公開とした。ただし最初から要求してきた解雇者全員復職という水準の合意ではないと推定される。オ・ヘジン支会長は「要求が完全に受け入れられず組合員の間では残念だという声も出ている」と述べ、「それでも外国のグローバル企業と2年間闘うことは容易でないことでもあり、ある程度の成果をおさめて終結したという点では皆が同意している」と語った。



◀金属労組慶南支部韓国サンケン支会の労働者が先月20日午前からソウル麻谷洞のコンワビル内のAPTIC事務所を占拠し座り込みに突入



◀全国金属労組韓国サンケン支会の労働者が韓国サンケン清算撤回闘争200日を迎えて決起大会を開いた

支会は6日に調印式を終えてソウルでの座り込みを解除した後、昌原に復帰した。まずはハnst闘争で衰弱した体を回復させてから闘いの報告大会を開く計画だ。現在、支会には12人の解雇労働者が残っている。

労使合意には雇用労働部昌原支庁の積極的な支援もあった。先月20日、支会がサンケン電気の合作会社APTICの事務所を座りこみ占拠しハnstに突入すると、担当の勤労監督官を派遣して交渉を斡旋・主管した。



◀日本のサンケン電気が予告した廃業当日の2021年1月20日午前、昌原市馬山会原区の馬山自由貿易地域内の(株)韓国サンケン工場前で全国金属労組韓国サンケン支会が「日本のサンケン電気による解散および清算撤回」を要求して剃髪式



◀2021年1月7日、慶南道庁前で開かれた韓国サンケン清算撤回要求記者会見で、韓国サンケン労働者が日本のサンケン電気に対し解散および清算の撤回を要求

会社側の法律代理人ムン・ヒョンジュン弁護士は「労使間の立場の違いが大きくて合意が決裂するのではないかと心配したが、昌原支庁の仲裁で円満に妥結した」と述べ、「交渉の終盤で労使共に少しずつ譲歩し事態を解決することができた」と明らかにした。

オ・ヘジン支会長は「政府はもちろん地域の市民・労働団体など多くの方々の関心と支援によって結果を導き出すことができた」と述べ、「昌原の座り込みの場もまもなく撤去し日常に戻る」と語った。